



来月からスタートする2019シーズンに向けて、北海道強化指定審判員の堀さんと宗像さんの2名が、静岡FA・神奈川FA主催の合同研修会に自主参加をしてきました。下記に、研修会の報告内容を記載しましたので、是非参考にさせていただければと思います。

## 【静岡FA・神奈川FA 合同研修会に参加して】

(札幌地区 堀 悠雅)

この度、2月16日～17日に静岡県で行われた静岡FA・神奈川FA合同研修会(ブーマカップ)に参加してきました。

参加インストラクターは、国際審判員、1級審判員、静岡FA副委員長、神奈川FA委員長に指導していただくことができました。

〈研修内容〉

1日目は試合を行い、INSの方からフィードバックを頂き、夜には座学の研修会であった。2日目は試合を行いINSの方からフィードバックを頂き、解散となった。

1日目 担当試合:清水エスパルスユース VS 桐光学園等学校サッカー部

INS 分析→アウトオブプレーになった時に集中力が切れている。選手が何を考えているか、何をしたいのかもっと考えると良い。攻守の切り替えの速さは継続して行って欲しい。北海道の1級候補ではなく日本の1級候補として、なぜ1級を目指しているのか考え頑張してほしい。

自己分析→高校年代で高いレベルの戦いであった。足元の接触で倒れる競技者は少ないことに試合が始まって気づくことができ、基準をある程度保つことができた。

ホールディングの反則については一貫して早めの段階で笛を吹くことができた。ポジションについても、プレスの状態を見ながらかつボール保持者の目線や、受け手を意識することができ、それらを把握できるようなポジションかつ重要な場面では近くで見極めることができた。PA内の接触はPA内で見極められるよう今後も継続していきたい。

夜の講義内容は、Jリーグの試合を用いて12シーンについてグループごとに分かれ、ディスカッションをした。判定を下す際に考えることやどのようなことを想定するか、主審としてどうすべきであったか、判定基準・ポジショニングについてディスカッションを繰り返した。今の私たちに重要なのは判定をどのような根拠で判定をするか、正しい判定に導けるかということが重要であると再認識することができた。



2日目担当試合：町田ゼルビア VS 富山第一高等学校サッカー部

2日目の私の割り当ては副審であった。特に大きな問題なく円滑に運営することができ無事に終えることができた。



〈全体を通しての感想〉

静岡県の研修会に参加させて頂き、僅な時間であったが非常に有意義に過ごすことができた。この時期の試合は貴重な経験で、静岡 FA の1級候補とも時間を共有し切磋琢磨することができた。また唐紙国際副審の貴重なお話をお伺いする時間があり、世界各国での試合までの過ごし方など興味深い内容であった。私個人としては、今年は例年以上にこの時期にトレーニングを自分と向き合いながら行えているため、試合での疲労をあまり感じることなく、北海道の試合開幕に向け良い準備ができていると自信にもなったため、継続していきたい。判定基準に関しても大まかなブレはなく行えていると感じている。

また、静岡の研修会では INS の他にコメンテーターが1試合に一人以上配属されていて、(このコメンテーターは審判員で構成されている)試合後、INS 分析の前にコメンテーターからのアドバイスを得てから INS 分析という流れで、活発にディスカッションが繰り返されていた。

今回の経験を踏まえ、今まで以上に「1級」について様々な視点から見直していきたい。

(十勝地区 宗像 瞭)

1日目担当試合：桐光学園高等学校サッカー部 VS 松本山雅 FC U-18)

自己分析→3か月ぶりの試合実践であり、30分ハーフのゲームといえども強度が高い試合で、心拍数が200を超える時間があった。縦に早いサッカーを志向する両チームのサッカーに、前半は後追いが多くなってしまったが、後半に入り、両チームのスタイルに合わせた修正ができたことや、動き出しのタイミング・視野の確保の仕方を取り戻し、余裕を持ってプレーについていくことができるようになった。

動きの部分では、前線からのハイプレスへの注意が低く、先取りする前目のポジションに位置することが多くなってしまい、攻守が切り替わったときに焦って追いつこうとしたことが課題となる。

判定については、危険な方法でのプレーに対して危機感が低く、感じ取れなかったことがあった。キーインシデントとなったことは、後半終盤残り3分で、キーパーとフォワードの衝突があり、フォワードがボールに滑り込んでプレーした際に、同じく滑り込んできたキーパーの左目上部に足が当たってしまった事象である。プレーには追い付けていて、フォワードが先にボールにプレーしたのは見えていたが、危険な方法でのプレーという事でフォワードに警告を示した。

INS 分析→攻守の切り替えや動き出しの速さは全体的に良く、昨シーズンに課題としていたようだが、改善できているように思える。そのままの方法で動きを続けてほしい。動きで気になったのは、ペナルティーエリア周辺の修正が足りないところ。縦に入るボールに追いつけてはいるが、追いついて満足しているように見えるため、そこからの修正がより高い説得力につながる。

判定については、危険な方法でのプレーもそうだが、全体的にホールディングが気になる。スローインを受ける際の攻守両方共の手の使い方に基準を示してあげると良い。早い時間で、基準を示すことで、以降は反則がなくなるようになる。

キーインシデントとなった点は、フォワードが先にボールにプレーしたところにキーパーが突っ込んでいった印象を受けた。キーパーは傷んだかもしれないが、フォワードは正当にプレーしたため、保障してあげるべき判定のように思える。

2日目担当試合：富山第一高校サッカー部 VS FC 町田ゼルビアユース

自己分析→昨日の試合での疲労も残しつつではあるものの、試合勘も戻っており、落ち着いてゲームに入り込むことができた。昨日とは打って変わってポゼッションを重視するチーム同士の試合で、動き出しのタイミングに変化をつける必要があった。受け手と出し手の動きを両方見れるワイドな位置を基本とし、フォワードの動きに対応していた。切り替えの速さを考え、先取りするポジショニングが多かったが、争点となっているのは逆側のディフェンスラインであったりと、ゲームを通してみると適したポジショニングではない時間があった。



判定は、昨日の反省を活かせず、足を高く上げる危険な方法でのプレーに課題が残っていた。

INS 分析→R サイドのポジショニングで、ワイドに開き全体を視野に収めているが、選手の邪魔になってしまうことも考えられるため、状況によって使い分け、ワイドな位置から見るときと中央目から見るときの判断を正確にできるようになると良い。攻守の切り替え時など動きの判断は早いですが、主審ありきのオートマチックな動きが多く、試合に適応した判断が必要になってくる。早めに動き出し過ぎてしまうこともあるため、プレーを行かせて後ろから見守る動き方も習得できると良い。動きの判断はするが、あえてワテンポおいて動き出すことも一つである。突っ込んだポジションや、動きすぎるときがあり、もっと要領よくできるのではないかと思う。アドバンテージの適用が2回あったが、かけるタイミングも良かった。有効なアドバンテージであった。

(全体まとめ)

試合の内容については、上記振り返りで記したとおりであり、課題はたくさん出てきましたが、北海道では試合がないこの時期に発見できたことが収穫でありました。3月下旬から道内でも試合が開催されますので、改善のイメージを膨らませていこうと思います。また、全国大会出場チームや、J ユースのチームの試合を吹かせていただき、高いレベルの経験を積めたと考えております。

ただ、それ以上の今回の収穫として、静岡県及び神奈川県 of 審判員の熱意・審判活動に対する姿勢を感じ取れたことが挙げられます。運が良いことに私は何度か JFA 主催の研修会に参加できたり、昨年までの2年間は北海道地域レフェリーアカデミー生として活動しましたが、本州の審判員と交流した際は、毎回審判活動への熱意に強く宛てられて帰ってきます。

特に今回はグループディスカッションの際に、それぞれが考える判定の根拠や、質問意見を忌避なくぶつけ、より厳密な考え方の擦り合わせができており、関東・東海地域では当たり前なことではあると思いますが、北海道地域ではまだまだ足りない要素だな。と感じました。

また、2019年シーズンに同期で1級候補として活動される静岡県の審判員と交流できたことも成果でありました。1級受験に取り組む考え方や、実際に試合を見ていただいて感想を聞くことができ、意識・技術の両面で大変貴重な経験をさせていただいたところです。